

年頭所感



常任理事 運営幹事会 副代表幹事 **柚村 隆**

(パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社 公共システム推進室 室長)

新年、あけましておめでとうございます。皆様にとりまして、本年が希望に満ちた年になりますよう、心からお祈り申し上げます。令和2年度、新元号になってから最初の年頭所感を担当させていただくことになり、「何かの縁」あるいは自身の「運」と前向きに捉え、大変光栄に感じております。

さて、2019年4月に前任より引継ぎ、本協会の常任理事及び副代表幹事に就任させていただいてから、早いもので残り3か月で1年を経過しようとしています。誠に不勉強ながら、当初は「日本防犯設備協会」についての知識がほぼ無い状態でありました。しかしながら、防犯設備士制度を事業基盤とした活動を通じて今日の安全・安心な社会の形成へ貢献し、支え続けている団体であることを知るとともに、開催目前に迫ったオリンピック・パラリンピック競技大会におけるセキュリティ対策も踏まえ、本協会の担う役割の重要性かつ常任理事としての重責をあらためて実感した次第です。その特別な2020年度においては、代表幹事という立場になることもあり、一層気を引き締め取り組んでいく所存です。そして、弊社パナソニックグループとしても、オリンピック・パラリンピック競技大会の警備システムに関わる立場として、大会の安全運営を図ってまいります。

もう一つ、2020年度に向けて我々が留意すべきことは、昨今の気候変動に伴う自然災害だと感じております。記憶にもまだ新しい昨年10月に発生した台風19号は猛威を振るい、未だ日本の各地域に大きな爪痕を残しています。気候変動と申しました通り、今年も十分に想定をして準備をすることが必要です。「防災・減災」なので、「防犯」とは少し異なる観点になると思いますが、当協会においても昨年、総合防犯設備士試験日と首都圏における電車の計画運休日とが重なり、経験のない事態への対応策について、少々議論になりました。私自身、試験日を認識しながらも、常任理事という立場で何もできなかったことを反省する次第であります。事故がなかったことを幸いにして、今年の活動への教訓として活かせるよう決意を新たにしています。

私自身は、20年以上前まで遡る経験になります

が、「自治体向け防災無線システム」の普及に営業職として携わった経験があります。当時の大規模災害といえますと、阪神・淡路大震災を始めとした「地震災害」が強く印象に残っています。前例のない災害があった場合は、多くの自治体様が、システム導入を検討する前に、想定災害・体制等（地域防災計画）の見直しに入らないといけないということになり、「防災システム（機器）」を売りこむだけでは根本課題解決（提案）にはならないという教訓を得ました。機器の違いはあれども、「防犯システム」も考え方は同じだと思います。これまでの経験も活かして「そもそもの目的・あるべき姿」を意識して本質課題に向き合っていきたいと思っています。

協会の重点活動という観点からは、本年も「防犯設備士」の受験者増が継続課題になると想定されます。愚直な啓蒙活動とこれまで打ち出された施策に加え、会員同士でもさらに知恵を出し合って、より有効な対策が講じられればと考えています。目的は、あくまで日本の「安全・安心な社会への貢献」であり、そのために一定のレベルを保ちつつ、対応できる方の数を増やしていくことが肝要であることは当面変わらないはずです。オリンピック・パラリンピック競技大会にて日本の警備システムとそれに関わる取組みを世界にアピールする絶好の機会の年でもあり、追い風は確実に吹いてまいります。この良い風に乗って、オリ・パラ選手同様に切磋琢磨し、協会メンバーで一丸となって頑張っていきましょう！今年もよろしくお願い申し上げます。